

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援サカセル 上山門事業所		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年1月10日		～ 2026年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの得意・不得意を詳細に把握し、特性に応じた個別最適化の療育を提供。必要な支援を独自に作成し、着実な成長を最大限に引き出している。	子どもの興味や好きなことに合わせて完全個別のカリキュラムを構築している。専門的な画材や技法を体験できる機会を設け、得意を伸ばしつつ自己肯定感を高め、楽しい余暇づくりにつなげている。	作品展示会や成果発表の場を広げ、子どもの頑張りや周囲に伝わる機会を大切にしている。日々の小さな成功を見える形にすることで、自己肯定感を育み、自己表現や自信の成長を支えている。
2	専門職の見立てをもとに、遊びを取り入れた独自の運動療育を行っている。子どもが楽しみながら自然と体を動かせるよう工夫し、計画を軸に全身運動を通して身体機能と体力の土台が安定するよう支援している。	専門的な知見を取り入れながらプログラムの質を高めている。また、計画を軸に一人ひとりに合った動きを遊びの中へ自然に取り入れ、楽しみながら全身を使えるようにしている。その様子や変化はわかりやすく保護者に共有している。	子どもの興味関心に合った道具を揃え、子どもの可能性を最大限に引き出しつづける環境を整えていきたい。
3	保育士や作業療法士、心理士など多職種の専門家が連携し、発達の様子を細やかに把握して共有。計画に沿った一貫した支援で、安心して成長できる環境を整えている。	多職種が専門知識を持ち寄って連携し、子どもを多角的に理解。スタッフ同士が情報を共有し、その子に合った計画とオリジナルカリキュラムを丁寧に作成している。	職員研修を深め、専門技術の共有と支援の質を高める取り組みを進めている。
4	五感が自然とひらく体験活動や多彩なイベントを工夫して行い、子どもたちの社会性や好奇心を育む取り組みを進めている。	工場見学のような社会体験や、けん玉検定などの目標に向かう活動を取り入れ、実体験を通して社会性や探究心を育み、資格取得などの小さな「できた」を大切にしている。	人とのふれあいを通じて社会性を育む。子どもの「好き」という気持ちを生きがいにつなげるよう、工夫する。職員が常日頃よりアンテナをはって、子どもの好奇心が満たされる活動を模索していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の構造的な問題ではあるが、教室が2階にある為、階段を必ず使わなければならない。また、階下への配慮の為、教室内での運動や遊びに制限がある。	事業所が1階ではないという、建築構造上の問題。	常に危機管理の意識をもって、普段からより一層の安全確保に努めている。 現在、階段の上り下りの際、子どもたちに手すりを持たせたり、職員が手をつないだり、職員が側につく(いつでもフォローできるように職員が下側)ようにしている。また、照明を複数個設置し、足元がよく見えるようにしている。気候・天候の良い日(時期)は、なるべく公園遊び等、外に出る機会を取り入れている。今後も状況に応じて工夫していく。
2	法定基準を満たしているが、特性上配慮しなければならない子どもの出席が多い日など、手狭感を感じることもある。	放課後等デイサービスという業態の特性上、子どもの声や振動に対して、近隣住民の理解がどうしても必要であり、立地場所が限られてくる。	「公園で遊びたい」という子どもたちからの要望も配慮し、スペースの有効活用という点から、過ごしやすい日は公園遊びを行っている。また、普段から間仕切りを使うなどして、スペースを最大限有効活用できるように、全ての職員が意識して取り組んでいる。
3	追加利用の希望があった際、安全管理に十分な職員体制が整わず、ご利用いただけないことがある。	職員がシフト制で勤務しており、急な変更に対応できない場合があるため。	状況に応じて児童の曜日調整等を行い、なるべく保護者のご希望に添えるよう、検討している。 また、曜日によって不公平が生じないよう、イベント等企画する曜日も検討している。